



京都府立 久美浜高等学校



「茶道部・抹茶々碗づくりに挑戦（第3～5回）」

=自分たちのお茶席に自分たちの
お茶碗でおもてなしがしたい。=

第3回 12月13日（木） 土を練る！



9月に兜山（かぶとやま）から掘り出した土を、約2ヶ月かけ石や根っこをより分けました。それを色ごとに分け、細かく刻みました。



浅田先生宅のアトリエにて、いよいよ土をこねる作業に入りました。少しずつ水を加え、土を練り合わせます。



手のぬくもりが伝わると土が硬くなり、水分を加えすぎると柔らかくなりすぎる。加減が難しい作業ですが、時間をかけ、一つ一つの作業を丁寧に取り組むことで、物を作ることに心が込められます。できあがった粘土も、作品の一つです。

第4回 12月14日(金) 形をつくる!



準備した粘土から、形を作ります。

- ① 高台（茶碗の底の部分）をろくろの中心に置きます。
- ② その上に、手で紐状にのばした粘土を重ねます。
- ③ 粘土の中の空気を抜きながら指先で、押しつまみながら密着させます。
- ④ 手作りした竹べらで中の形を整え、また同じように紐状の粘土を重ねます。
- ⑤ 最後は飲み口を整えて、ろくろから切り離します。



浅田先生の作品を手を持たせてもらい、厚み、重さ、手触りを確かめる。



第5回 12月15日(土) 形を整える!



前日、形作った作品を手製の竹べらで削ります。

お茶碗は生まれたての赤ちゃんを取り扱うように両手で持ち、優しく丁寧に削ります。

購入した粘土ではないので、ちょっとした力の加減でヒビが入ったり、崩れたりします。

この作業の間は、まるで茶室にいるときのように静かな張り詰めた空気が漂っていました。



葉っぱの葉脈を利用した銘々皿作りも行いました。

膝や肘など身体の一部を利用して、丸みをつけたり、葉っぱの形状に合わせてカットしたりしながら、世界に一つしかない、久美浜産の作品が完成しました。